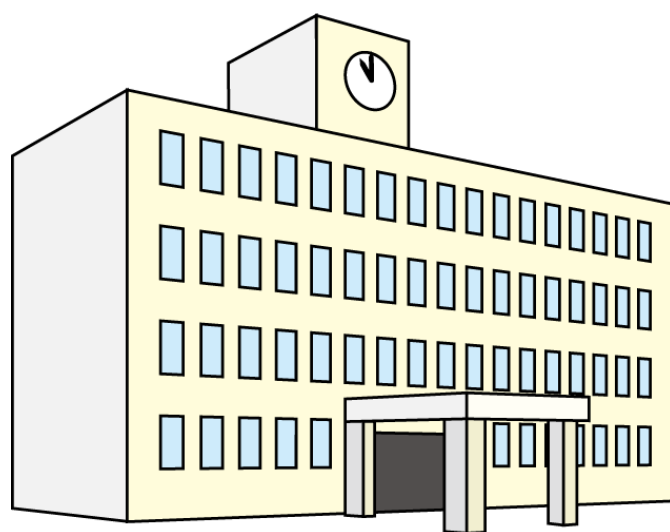


イメージ

**(仮称) 厚田小中学校基本構想**  
**(学校整備基本計画)**



平成 29 年 3 月

石狩市教育委員会

## 目 次

- 1 学校整備基本計画策定にあたって . . . . . P 1
- 2 厚田における学校教育の概要 . . . . . P 2～
  - (1) 厚田区における学校教育の歴史と特色
    - ① 厚田区における学校教育の歴史
    - ② それぞれの学校と地域の連携
    - ③ 小学校間と中学校間の連携
    - ④ 中学校区の小中学校間の連携
    - ⑤ その他
  - (2) 各学校の特色ある教育活動の取り組み
    - ① 厚田小学校
    - ② 望来小学校
    - ③ 厚田中学校
    - ④ 聚富小中学校

### 3 学校規模（校舎設計等）の概要

- (1) 教室数の設定（普通教室、特別教室、多目的教室など）
- (2) 図書館機能（地域開放型図書館・あいかぜ図書館の移設など）
- (3) 保育園機能（部屋数、面積など）

### 4 小中一貫教育の導入

### 5 コミュニティ・スクールの導入（厚田モデル、スタンダード）

6

7

## 1. 基本構想（学校整備基本計画）の策定にあたって

厚田区の各学校が、それぞれの教育目標と共に重視している「厚田ならではの教育」「厚田でなくてはできない教育」は、長い伝統の中で培われた、それぞれの学校と地域との深い結びつき、小中それぞれの学校間の結びつき、小中学校の9年間を見通した結びつきを生かし、充実した教育活動に取り組もうとする厚田の教育関係者と保護者、地域住民の心意気を表している。

厚田区の統合校の基本構想（学校整備基本計画）の策定にあたっては、厚田小学校、望来小学校、厚田中学校、聚富小中学校と、すでに閉校した各学校のこれまでの歴史と統合までの経緯を踏まえ、新たな歴史を刻むこととなる新設校にふさわしい学校のあり方と施設のあり方について、(仮称)厚田小中学校設立準備委員会で検討を重ねてきたところである。

この設立準備委員会で行ってきた検討を基に策定した本書は、統合校の施設整備事業を円滑に遂行し、「厚田ならではの魅力ある学校づくり」を実現するための仕組みづくりと、施設・設備の基本的な機能についてまとめたものである。

## 2. 厚田における学校教育の概要

### (1) 厚田区における学校教育の歴史と特色

#### ① 厚田区における学校教育の歴史

厚田は、松前時代から漁業が盛んで弁財船の寄港地としても繁栄していた。明治に入り定住者が増加すると、子どもの教育が必要とされ、古潭・厚田に1か所ずつ寺子屋式私塾が開設された。佐藤辦蔵が東京から迎えた2名の師匠が両地を教えていたと伝えられている。

明治5年に「邑ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン事ヲ期ス」とした学制が公布され、同6年、開拓使札幌本庁が郷学を教育所と改めるよう布達し、教育制度が整備されつつあった。

厚田の公的な学校教育は、明治9年10月の古潭教育所、明治10年3月の厚田教育所の開設に始まる。

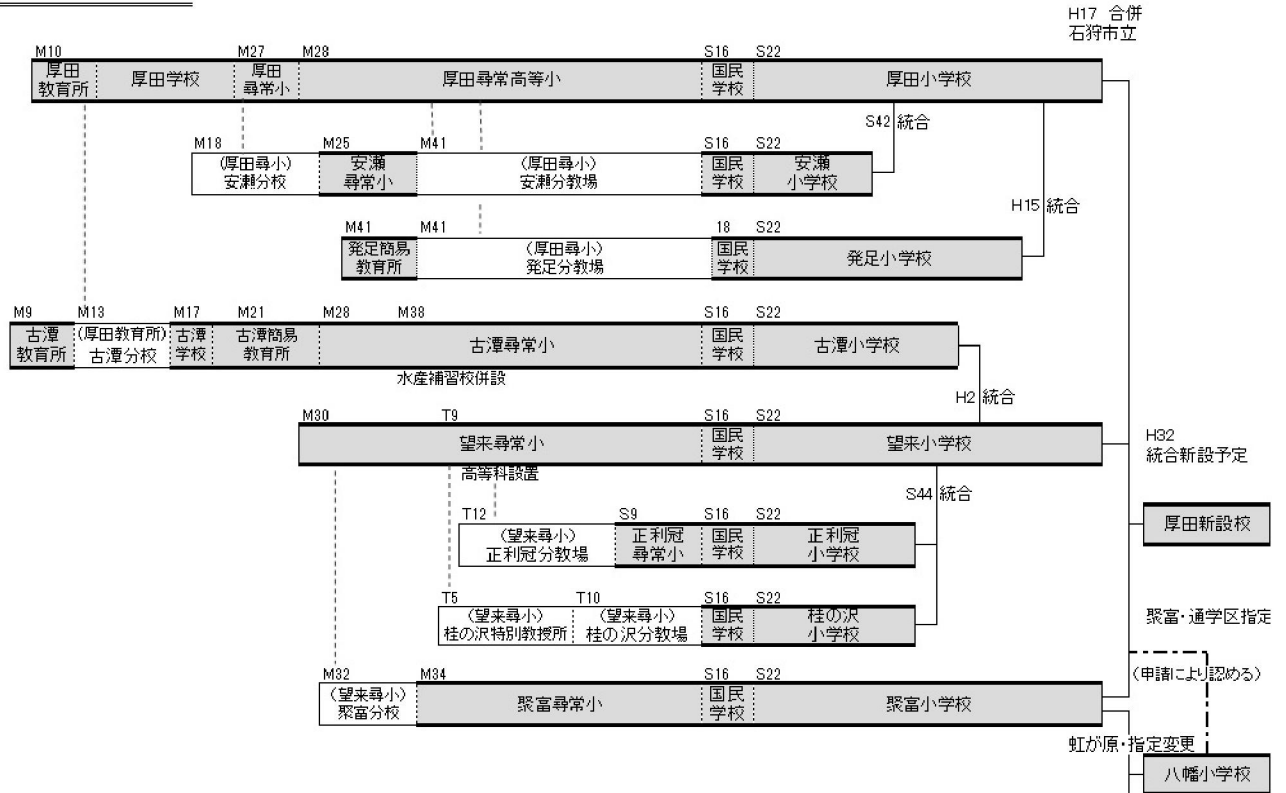
石狩管内の公的な教育所としては、花畔、石狩（共に開設明治6年）に次ぎ、厚田、浜益（同11年）、千歳（同13年）に先んじ、全道的に見ても最も歴史のある学校のひとつである。

当時、文部省や開拓使の方針にもかかわらず、学校の設立はなかなか進まなかった。その理由として(1)教育の必要が徹底していない。(2)経費の補助が少ない。(3)住民が貧しい(4)良い教師を得ることが難しいということが指摘されている。（石狩教育史）

このことから、当時の厚田の人々の経済力と、それにも増して、教育にかけた情熱がしのばれる。

その後、安瀬、発足に分校が設立され、明治30年には望来尋常小学校、同32年には聚富尋常小学校が設立された。望来尋常小学校には、正利冠、桂の沢分校が設立された。これらの学校は下図のように、独立したり、統合されたり、制度変遷によって名称が変更されたりしたが、旧厚田村には多いときで、各地域に8校の小学校在りしていた。

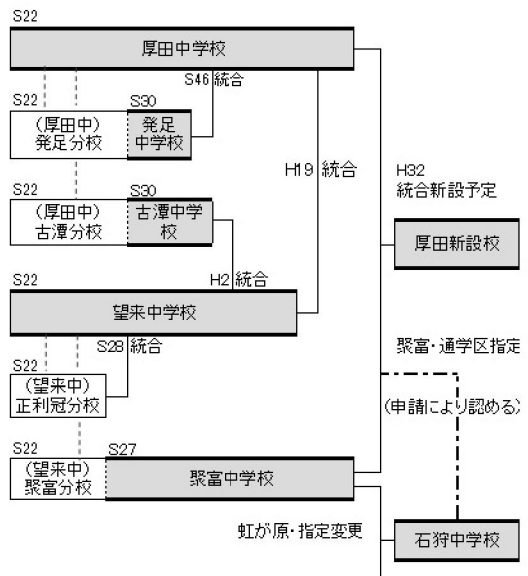
厚田区小学校の歴史



一方、中等教育は、明治 28 年に厚田尋常小学校に高等小学校が併設、厚田尋常高等小学校となって始まった。その後、大正 8 年に望来尋常小学校に高等科が併設され、さらに、明治 30 年に古潭尋常小学校に水産補習校が併設されて、着実に進展した。

昭和 22 年に学校教育法が制定されて、新しい学校制度がスタートすると、厚田中学校と望来中学校が新設され、厚田中学校には発足分校、古潭分校が併設され、望来中学校には、正利冠分校と聚富分校が併設されて、新しい義務教育の中学校が誕生した。

厚田区中学校の歴史



各地区の住民の強い希望により誕生し、地域と共に歩んできた厚田の学校ではあったが、児童生徒数の減少に伴い、閉校・統合を余儀なくされていった。昭和42年には、安瀬小学校が厚田小学校に、昭和44年には正利冠小学校と桂の沢小学校が望来小学校に統合され、平成2年に古潭小中学校が望来小学校と望来中学校に、平成15年に発足小学校が厚田小学校に統合され、平成19年に望来中学校が厚田中学校に統合された。統合直前の在校生は、発足小学校7名、古潭小学校3名、古潭中学校15名、望来中学校が16名だった。

## ② 地域と学校の連携

厚田の学校についてそれぞれの歴史を紐解くと、どの学校も地域の住民から非常に大切にされてきたことが明らかになってくる。いくつかの事例を紹介する。

古くから漁業で繁栄した古潭と厚田で寺子屋式私塾が開かれたことはすでに述べたとおりであるが、後に農業による開拓が行われた望来、発足、聚富などの地域でも同様にして教育が始まったことが、記録に残っている。

発足地区は明治19年に、徳島県人5戸の入植によって開拓が始まった。南国から入植した人々は寒さ厳しい北の大地のうっそうとした森林を開拓して生活の基盤を確立していった。一定の生活基盤が整備された明治31年に、地域の人々は協力して笹葺き小屋を建て、浄土宗の僧侶を雇用して寺子屋風の教育を開始した。最初に学んだ子どもは5、6名であった。5年後の明治36年に発足簡易教育所が認可されるが、この時、校地は佐藤辦蔵の寄付により、校舎は住民が別荘にあった漁場の建物を購入し、全員の奉仕作業で解体、運搬、建設を行った。

さて、第二次世界大戦末期の昭和20年7月15日、アメリカ軍が北海道各地を空襲して大きな被害が発生した。全道で唯一空襲によって焼失した学校が、古潭国民学校（当時）だった。戦後、漁業組合の水産倉庫で不自由な授業が行われる中、住民の間に新校舎建設の機運が高まっていった。しかし、戦後の混乱の中で、校舎建設は困難をきわめていた。住民は自らの手で学校再建に取り組むことを決め、全員の手で、払い下げを受けた千歳の軍関係の施設を解体、運搬した。さらに土台のコンクリート打ちから建て前、ガラス入れまですべてを協力して行い、昭和22年11月に新校舎を再建させることができた。

その後も、連綿と続く住民の篤い支援に支えられて、厚田の各学校では充実した環境が整備され、厚田ならではの教育活動が行われてきた。

学校・家庭・地域社会の結びつきは、どの時代にあっても教育のきわめて重要な課題であるが、生涯学習審議会が、平成8年4月の答申において「学社融合」の概念を提唱したことで、その意義が再認識されることになった。平成10年に厚田小学校と厚田中学校が、石狩教育局の学社融合推進モデル校に指定された。この指定を受けて、両校では、福祉施設や地域行事との連携を強化した。また、小学校では地域住民による読み聞かせ、陶芸体験、保護者の協力による地域探訪などこれまでの取り組みの充実を図った。中学校では、厚田村七夕行灯行列に全校で参加することになった。

長い歴史によって培われた伝統を踏まえながら、現在、それぞれの学校と地域で行われている主な連携活動は次のとおりである。

### 【厚田小学校】

- ・運動会の「厚田音頭」…厚田婦人会の指導をいただく。
- ・米作り体験…3、4年生による地域学習。地域の方の田んぼを借りて実施。手植えによる田植え体験、稲刈り体験（コンバイン乗車も）など。

- ・もちつき大会…PTA、元気会、おやじいの会のみなさんに協力いただき、実施した。
- ・地域学習…3・4年生。厚田朝市でお店の方に質問。地域の農家の方に指導していただき、メロン栽培に挑戦。
- ・漁師さんの出前授業（漁連主催）…3,4年生対象に厚田の漁師さんが網による漁の仕方を映像で説明。他にロープワーク体験も。
- ・厚田区・ふるさとあきあじ祭り参加…「はまなす園」と共によさこいを披露。厚田婦人会との「厚田音頭」も。
- ・みよし園訪問…3～6年生が福祉施設を訪問。内容は、「音楽のおくりもの」合唱、厚田音頭披露、手紙を渡しながら話をするふれあいタイム、「ふるさと」合唱。
- ・総合的な学習の発表会…保護者、学習に協力いただいた団体（こだわり隊、地域おこし隊、エポ北海道、やまどりの会、市教委）を招き発表、感想もいただく。
- ・学芸発表会…例年PTA種目も実施（27年度は中止）
- ・ボランティアによる読み聞かせ…厚田区読み聞かせサークルの皆さんが、厚田小図書館・市立図書館分館である「あいかぜ図書館」で、定例の読み聞かせを実施。
- ・親子文集「みよし」の編集・発行…PTA文化研修委員会により、児童作品の他に、PTA会員の作品も。
- ・元厚田スキー場でのスキー学習…地域スキー同好会にスノーモービルで引っ張り上げていただき、さらに指導もしていただく。
- ・海から厚田を見る会…3～5年年生が、濃昼を往復。

#### 【望来小学校】

- ・出前授業「望来獅子舞について」…保存会前会長をお招きし、獅子舞のルーツや舞の特徴など、話していただく。
- ・望来小学校・地区合同運動会…地域と合同運動会となって10回目。地域の3名の方に厚田音頭講を教えていただいた。
- ・田植え農園活動 地域の農家の田んぼの一角を借りて「ゆめピリカ」を栽培。田植え、稲刈り、脱穀体験、おにぎり昼食会などを実施。様々な人との関わりや、栽培を通して思いやりの心も育成。
- ・運動会で行うもちまき…PTAが中心になって実施。
- ・すくすく園…「収穫祭」でのカレーライスづくりを目指して児童によるにんじん、タマネギ、ジャガイモ、PTAのご協力も得ながらトウキビなどを栽培。厚田地域協力隊の指導のもと、ポップコーン用のトウキビも栽培。
- ・砂の造形…伝統ある教育活動。児童によるA、Bの二つのグループとCグループ（保護者等）がサンドアートを制作。
- ・「童話を読む会」の方々による読み聞かせ 8名の方
- ・あい風コンサートへの地域住民参加呼びかけ…石狩市教育委員会主催で行われる生の演奏等を鑑賞する機会に地域住民の参加を呼びかけた。
- ・出前授業「100周年時の学校と地域の様子」…講師児童委員・民生委員・元PTA会長…当時の卒業生がつくったマークや100周年記念の石碑、その時に贈られた遊具などについて、地域の方々の思いを語っていただく。

- ・出前授業テーマ「つながり」…前本校PTA会長で、僧侶をされている方を講師に授業。命やものなどこの世にあるすべてが実は繋がっていることをスーパーマンのエピソードなどを交えながらお話していただいた。
- ・スキー学習（石狩平原）…スキーSATとして、指導員資格を持つ元PTA会長さん他地域の方にも指導に参加していただく。
- ・体力づくり発表会…前期はマラソンと一輪車、後期は縄跳び（種目跳びと持久跳び）の体力づくりの成果を地域住民・保護者に発表。保護者にも長縄跳びに挑戦していただき、子どもたちに大人が頑張る姿を見せた。

#### 【厚田中学校】

- ・地域文化の伝承「獅子舞学習」…望来獅子舞保存会の方々から望来獅子舞の歴史についてお話ししていただくとともに、各部門に分かれ練習に対してご指導、アドバイスをいただく。10月の厚中祭で発表。
- ・地域盆踊り参加
- ・厚田夏祭りへのみこし行列
- ・厚田ウィンターフェスティバル…雪像づくりで参加。
- ・地域住民や保護者を学校に招く「厚中へ行こう」企画…修学旅行報告会、獅子舞、JAICA研修員交流会などに
- ・特別養護老人ホーム「みよし園」訪問…合唱を披露。窓拭きなどのボランティア活動。
- ・特別養護老人ホーム「みよし園」との交流…合同運動会や文化祭に招待。
- ・道徳や総合的な学習における地域人材の活用
- ・合格祈願餅つき…保護者・地域住民の協力をいただく。
- ・校外清掃ボランティア…小学校、地域住民と連携し、海浜プールなど、地域清掃を実施。
- ・職場訪問…地域、石狩市内の保育所、公共施設などで職場体験

#### 【聚富小中学校】

- ・稲作・稲刈り・畑作（小学校）…地域の方やJA北いしかりの方の指導によって、農作物の栽培を行う。素足で行う田植え、鎌を手にした稲刈りなど体験的な学びを通して、育てる楽しみ、収穫の喜び、食の大切さを知り、生産者の思いと工夫に気づく学習をめざす。
- ・「収穫を祝う会」…小学生が育てたじゃがいもとニンジン、寄贈していただいた地元農産物と「望来豚ソーセージ」でカレー作り。
- ・地域を生かした体験学習…地域の自然や施設を活用した学習活動・体験学習。地層見学、販売体験、乗馬体験など。
- ・希久の園訪問…校区にある特別養護老人ホームを中学校3年生が訪問し、食事の介護、夏祭りの準備、高齢者の方とのコミュニケーション等、様々な体験。
- ・手話教室…講師を招き、小学校で色々な手話を学ぶ。
- ・クリーン作戦…通学路、バス停など、自分の住む地域を保護者の方と協同で清掃。
- ・運動会（聚富地区体育振興会との合同開催）…児童生徒の協議と体育振興会の競技を順番に実施。

- ・和楽器演奏会…中学校で和楽器学習を指導していただいた講師の先生方による三味線や琴の演奏会。
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ…「おひさまの会」のみなさんと教員による読み聞かせ。休み時間に年間 20 回、年間 2 回の読書月間には、1 時間の読み聞かせを実施。
- ・聚富保育園での保育実習…中学校 3 年生が家庭科の学習として実施。
- ・聚富神社祭…地域行事として全員が奉納相撲に参加。余興では小中全員が「よさこい踊り」を披露。
- ・水彩画展鑑賞…厚田区で実施されているアクアレー展（公募水彩画展覧会）で作品を鑑賞し、鑑賞の視点や楽しさを学ぶ。

### ③ 小学校間と中学校間の連携

「厚田ならではの教育」の重要な特色として「郷土愛」の涵養があり、その典型的な事例として、現在、厚田中学校で取り組む獅子舞の伝承をあげることができる。「望来獅子舞」として伝承されてきたこの取り組みが、統合後の厚田中学校に受け継がれた背景には、厚田における密接な学校間連携があった。

望来獅子舞は、富山県出身で当時 53 歳だった本吉五市郎氏が、生まれ郷里で幼いころに覚えた獅子舞を、昭和 5 年に望来の人たちの協力で再現し、以来舞い継がれてきた。昭和 45 年の望来開村 100 年を機会に保存会が誕生し、昭和 58 年からは、中学生が保存会の演技指導を受け伝承に取り組んできた。望来獅子舞は、運動会、学校祭、地域の祭典、施設訪問などで披露され高い評価を受けてきた。

実は、望来獅子舞のもうひとつの重要な発表の場として、厚田村時代の平成 4 年から 17 年まで 14 回にわたって行われた石川県門前町と、厚田 3 校の 2 年生全員による「子ども親善大使」があった。かつて北前船で結びついていた門前町を訪問する取り組みの中で、門前の中学生が気概と誇りを持って披露した「劔地やんさいこ」などの伝統芸能は、厚田の中学生に大きな影響を与えた。望来中の生徒は、門前の中学生の姿勢を見て、自分たちが取り組んできた獅子舞の価値を再認識し、平成 10 年からは訪問の際に獅子舞を披露するようになった。厚田中と聚富中の生徒は、門前と望来の取り組みに羨望の気持ちを感じて、当時大きなうねりとして盛り上がってきたよさこいソーランを披露するようになった。文化の交流は、門前と厚田、そして厚田 3 校の中学生の絆を深める上で、大きな役割を担うことになった。

望来中学校が閉校する際に、当然ながら望来獅子舞の伝承のあり方が大きな課題となった。統合により閉校した学校の取り組みが残ることは珍しいことかもしれないが、親善大使の蓄積があったからこそ、厚田中の生徒が、「望来獅子舞」の価値を正當に評価し、統合後、伝承の当事者になることができたのである。

この事例に見られるように、各学校間の結び付きがきわめて強いことも「厚田ならではの教育」の特色であった。昭和初期の記録で各学校の運動会に「他校種目」があり、交流を楽しみにしていたことがわかる。各学校の児童生徒数が減少すると、その問題点を補う目的で、合同の行事が増えていった。

昭和 59 年には「厚田村集合教育推進協議会」が発足し、明確な目標ときめ細かな計画によって学校間の連携が行われるようになった。組織は合併により解散したが、その伝統は現在まで続いている。現在行われている小学校における学校間連携の具体的な取り組みは以下のとおりである。

なお、中学校における定期的な学校間連携は、現在行われていない。



#### 【小学校】

- ・集合体育……集団スポーツなどに3校合同の体育で取り組み、単独校では実現できない競技種目を経験させると共に、少人数のよさを生かして活動量を確保する工夫を行っている。  
低学年…鬼ごっこや転がしドッチボールなど。  
中学年…ポートボール。ゲーム形式で対戦。  
高学年…バスケットボールやフットサル。ゲーム形式で対戦。
- ・1、2年合同社会見学…公共施設の理解と利用（JR・バス乗車体験、駅舎見学・インタビュー）
- ・3、4年合同社会見学…工場・お店見学（パールライス、サツラク乳業ミルクの郷、イオン緑苑台店）
- ・3、4年社会科フィールドワーク 厚田区の概要と公共施設見学
- ・5、6年合同宿泊学習（隔年）…聚富・望来・厚田小学校の5・6年生が合同で実施。千歳ダイナックス（自動車のクラッチ生産工場見学）、白老ポロトコタン（先住民アイヌの人たち伝統料理、ムックリ等の文化を体験）、有珠山西山火口、火山科学館、ルスツを見学。
- ・5、6年合同宿泊学習…野外炊飯、スポーツ研修、水上スポーツ体験、砂川少年自然の家
- ・小学校音楽の集い…11月に厚田区総合センターで厚田区生涯学習フェスティバルの一部として3校合同で実施。他校の演奏や合唱を聴いて、交流。

#### ④ 中学校区の小中学校間の連携

聚富小中学校は、小学校と中学校が併置された学校であり、小学校と中学校の連携が日常的に行われる環境が整っている。同校では、さらに「少人数だから、小中併置校だから、聚富だからできる学校づくり」を重点目標「課題意識をもって学び、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成（小中学校の連携を図りながら）」を研究主題として、小中学校の結びつきを学校の強みとした学校経営に取り組んでいる。

具体的には、小学校と中学校の教員が、相互に乗り入れた教育活動を実施している。小学校では、基礎・基本の定着と中学校教員の専門性により、児童の学習意欲の向上を図るため、中学校籍の教員と小学校担任によるTT授業を、5、6年の社会科、理科、家庭科、外国語活動、4年の算数で実施している。また、小中合同行事に当たっては、小学校籍の教員が9年間を見通した提案をして、協働的、協力的な指導体制の充実を図っている。「乗り入れ授業を行うことで、9年間を見通す大切さがわかった。もっと早く取り組めばよかった」という教員の感想が多く、乗り入れによって、学校がまとまり、全員がひとつになって、子どもを育てる姿勢が強まった。

小学校と中学校の連携は、厚田中学校校区（厚田小・厚田中・望来小）でもきめ細かく実施され、成果を挙げている。現在厚田区の両中学校区で実施されている主な小中連携教育の取り組みは次の通りである。

#### 【両中学校区に共通する取り組み】

- ・中学校教員による出前授業
- ・学習規律・ノート指導の徹底・家庭学習等の交流、小中連携会議・生徒指導交流会で検討・協議
- ・CRT結果等の 学力情報交流

- ・入学前の丁寧な情報交流
- ・入学説明会と春休み学習帳による中学入学準備

#### 【厚田中学校区の取り組み】

- ・小中合同運動会（厚田小・厚田中）…平成16年に始まり、今年で13回目。
- ・厚田海浜プール合同清掃（厚田小・厚田中）
- ・生徒会・児童会活動の連携……リングプル・ボトルキャップ回収での協力（厚田小・厚田中・望来小）
- ・出前授業の具体例「国際理解教育」…青年海外協力隊の経験がある厚田中学校吉田教諭を講師に、中米にある国「パナマ」について、食事や言葉など文化を中心に、向こうの子供たちに人気のある遊びを交えながらお話しをしていただく。（厚田小・望来小）
- ・出前授業の具体例「学芸発表会全校児童による合唱や1～6年の器楽演奏」の指導…学校の音楽の先生に全体指導をしていただく。（厚田小・厚田中）
- ・小教職員が保育園へ行き、入学する園児の様子を保育参観。新入学児童の情報を共有し、対応を検討。（厚田保育園・厚田小）

#### 【聚富中学校区の取り組み】

- ・小中合同運動会
- ・小中合同学芸会
- ・聚富地区クリーン作戦・地域美化清掃活動
- ・神社祭相撲への参加
- ・年に1回程度、会議にて園・学校の取り組みの交流行事を通じて子ども達の活動の様子を観察。（聚富保育園・くるみ保育園・聚富小）
- ・この他、本文中の事例

### ⑤ その他

## (2) 各学校の特色ある教育活動の取り組み

### ① 厚田小学校

学校名	石狩市立厚田小学校
<p><b>【学校経営の重点】</b></p> <p>①確かな学力を育む学習指導の工夫・改善          ②授業力を高める研修活動の充実          ③豊かな心を育てる道徳教育の充実</p> <p><b>【研究主題】</b></p> <p>「主体的に学び、協同的に課題解決をする子どもの育成」          算数科を通して              ①単位時間における学習過程の工夫、②客観的な実態把握と評価活動              ③ノート指導 ④相手意識をもった表現スキルの充実</p>	
<p><b>【特色ある教育活動】</b></p> <p>(学校と地域の連携、小学校間と中学校間の連携、中学校区の小中学校間の連携)</p> <p>①学校と地域              ○地域の人材を活用した農漁業体験活動、福祉の学習、その他(読み聞かせ、地域SAT、厚田を海から見る会)他</p> <p>②小中連携              ○合同運動会、地域清掃、出前授業、他</p> <p>③校区内小小連携              ○授業参観交流、家庭学習の統一化 他          (学力向上、体力向上等の取り組み)</p> <p>①学力向上→ 学校改善プランに基づく授業改善、学習規律、家庭学習の充実              ・学習タイム(水曜放課後)による習熟度別指導(高学年)              ・算数の単元終末における習熟度別授業</p> <p>②体力向上→年間を通した縄跳びの取組              ・全学年新体力テストの実施              ・日常的に取り組める環境整備(体育館内)</p>	
<p><b>【学校が抱える課題】</b></p> <p>学力向上に課題(特に高学年に傾向が強い)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一層の授業改善、家庭学習と連動したシステムの構築</li> <li>・職員不在時(会議、研修等)による補欠体制の補強              →今後学校統廃合に向けた加配の申請予定</li> </ul>	

## ② 望来小学校

学校名	石狩市立望来小学校
<p><b>【学校経営の重点】</b></p> <p>学校教育目標 1. <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よく考え進んで学ぶ子ども</span> (知) } 目標の実現に向けた取組の推進          2. 思いやりをもち助け合う子ども (徳) } 特に、進んで学ぶ子の育成を重点          3. 健康でたくましい子ども (体)</p> <p>◎創意を生かし、知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進・・・三つの柱と9項目の取組          ＊「学校経営ビジョン」参照</p> <p><b>【研究主題】</b></p> <p>「意欲的に学び、表現できる子どもの育成」～複式学級における算数科授業づくりを通して～          (3年計画1年次目)</p>	
<p><b>【特色ある教育活動】</b></p> <p>I. 学校と地域の連携、小学校間と中学校間の連携、中学校区の小中学校間の連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域性を生かした体験活動「稲作活動」、「すくすく園活動」、「砂の造形活動」、「収穫祭」等</li> <li>2. 地域との連携「地区合同運動会」、「学芸発表会」、「清掃美化活動」、「出前授業」等</li> <li>3. 小学校間の連携「合同社会見学」、「合同宿泊学習」、「合同修学旅行」、「集合体育」等</li> <li>4. 中学校区の連携「出前授業」(国際理解教育)、「自由参観日訪問」、「各種保健行事の支援」等</li> </ol> <p>II. 学力向上、体力向上等の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校改善プランに基づく取組(個別指導の充実、指導体制の工夫、ICT機器の活用等)</li> <li>2. 学習規律の徹底(「望来の子」を基本に指導)</li> <li>3. 学習記録(「個人カルテ」)の作成、各種調査やテスト結果の分析と取組の改善</li> <li>4. 体力向上プランに基づく取組(体育の授業、業間休みの体力づくり：マラソン、なわとび等)</li> <li>5. 学習支援体制の工夫(技芸講師の配置、地域SAT及び学生SATの活用)</li> </ol>	
<p><b>【学校が抱える課題】</b></p> <p>I. 平成27年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学力の向上⇒活用する力、応用する力に課題がある。また、家庭学習の時間が十分でない。</li> <li>2. 読書量の減少⇒読書する機会や時間の減少傾向がとまらないこと。</li> <li>3. 教育課程の改善⇒特色ある教育活動に係る時数の適正化、およびスリム化。</li> <li>4. 校務分掌の改善⇒3学級4定員の規模に合う分掌業務の工夫。</li> <li>5. 地域人材の活用⇒人材リストの活用を図ること。</li> </ol> <p>II. 平成28年度(学校評価・中間評価)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳教育、外国語活動の充実⇒年間指導計画の作成および改善</li> <li>2. 学校安全の確保⇒危機管理マニュアルの更新等</li> </ol>	



### ③ 厚田中学校

学校名	石狩市立厚田中学校
<p>【学校経営の重点】</p> <p>◎目指す学校像 「地域の中で存在感のある学校」 ①生徒にとって楽しい学校 ②保護者・地域に信頼される学校 ③教師にとって生きがいのある学校</p> <p>◎平成28年度教育目標 「一人一人が『確かな学び』を身につけ、自ら進んで意欲的に活動する生徒の育成」 ～自主・自立の育成を目指して～</p> <p>◎学校経営の重点</p> <p>1. 主体性を育み、生徒一人一人に応じた確かな学力の定着を図る。 (1) 基礎基本の定着・習熟の徹底と総合的知性（生きる力）を育む教育活動を展開する。 (2) 一人一人の学習状況を的確に捉え、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。（IT・補充学習の実践など） (3) 学習内容の理解や意欲を高めるため、指導内容の定着に向けた授業の改善・充実を図る。 (4) 学習内容の定着を図るため、個に応じた家庭学習の工夫改善を図る。 (5) 学力向上に関わり、小中一貫の考えに立って、9年間を見通した教育の充実を努める。</p> <p>2. 心身ともに健康で、自主・自立の精神を身につけ、表情豊かに生きる力を育てる。 (1) 全教職員の一貫した生徒指導を通して、生徒理解に努めるとともに、基本的生活習慣の定着を図り、自己指導能力を育成する。 (2) 道徳の時間の充実を一層図ることにより、内面にせまる道徳性を育てるとともに、教育活動全体を通して思いやりや感謝の心を育み、より良い人間関係の構築を図る。 (3) 体験活動やボランティア活動を通して、社会参加の意義や人との絆づくりについて意欲化を図る。 (4) 学年・学級活動、生徒会活動、各種行事等、生徒の活動全般を通し、表現力豊かな言語環境を育てるとともに、自主・自立の精神を育む教育活動の展開を図る。 (5) 体育的行事や部活動を通して、目標に向かって取り組む強い意思と体力を育てる。</p> <p>3. 保護者や地域の期待に応える、地域に存在感のある学校づくりに努める。 (1) 開かれた学校づくりに努め、保護者・地域に学校から積極的に関わる中で相互理解と連携を進める。 (2) 教職員・保護者・生徒による学校評価を活用し、教育課程の改善を図る。 (3) 地域文化の継承、地域や学校の人材・資源の活用を図り、朝読書、国際理解教育など特色ある教育活動の推進に努める。</p> <p>4. 教職員相互の和と信頼のもとで教職員としての自覚と経営参画意識を高める。 (1) 学校教育目標実現のための計画的・組織的な研究体制の確立、教職員一人ひとりの授業力・教員としての資質向上を目指した研修の充実を図る。 (2) 教職員の専門職としての自覚と使命感を持って、職務の遂行及び職能の向上、危機管理意識の高揚に努める。 (3) 全教職員が相互の信頼と協働意識を持って経営参画意識を高める。</p>	

【研究主題】

◎研究主題 すべての生徒に「わかる喜び」を感じさせる授業づくり  
～自ら進んで学習に取り組む生徒の育成～

◎研究内容と方法

- 1 個に応じた指導の充実  
(1) T T授業の充実 (2) 個人カルテの作成・活用
- 2 学習事項の定着に向けた指導の工夫  
(1) 定着に向けた授業改善（授業交流週間の設定と意見交流、授業評価の実施）  
(2) 定着に向けた家庭学習指導の工夫

【特色ある教育活動】

- 1 学校と地域との連携強化 ～小中統合校開校に向けて～  
(1) 学校行事を通しての地域への働きかけ (2) 積極的な情報発信  
(3) 地域人材の活用（伝統芸能「望来獅子舞」の講師、SAT、道徳の授業の講師など）  
(4) 地域行事への積極的な参加及び地域との積極的な交流（みよし園訪問など）  
(5) 文化部と「厚田・港・朝市」、「石狩湾漁協」との連携（案内及び啓発看板作成など）
- 2 中学校間の連携  
(1) 部活動における浜益中学校との連携（野球部・バレーボール部～合同チーム結成）
- 3 中学校区の小中学校間の連携  
(1) 厚田中学校区連携教育会議の効果的な運営（年3回開催 「学習指導」「生徒指導」「養護・栄養教諭」「事務職員」の4部門で活動）  
(2) 厚田小中合同運動会  
(3) 厚田小中合同校外清掃（ボランティア清掃 厚田海浜プール）  
(4) 中学校から小学校への出前授業の実施（国際理解教育、音楽）  
(5) 授業公開日等を利用した授業参観  
(6) 一日日程の入学説明会
- 4 学力向上の取り組み  
(1) 補充学習の充実（第3学年部活動引退後の放課後学習会、長期休業中の学習会）  
(2) 個に応じた家庭学習指導
- 5 体力向上等の取り組み  
(1) 毎朝の健康調査及び健康な体づくりのための食の指導（基本的生活習慣の確立）  
(2) 新体力テストによる体力・運動能力の実態把握と保健体育、部活動による体力向上の取組

【学校が抱える課題】

- 1 学力の向上（個人に応じた指導の充実）及び指導内容の定着
- 2 平成32年度の統合校開校に向けた小中連携の強化（9年間を見通した教育課程の編成など）
- 3 平成32年度の統合校開校に向けた生徒の自発的活動促進及び自主性・自立性の育成の強化
- 4 生徒数の減少に伴う教育活動の矮小化・縮小化（部活動の存続、行事の内容変更など）
- 5 地域活性化の一翼を担う教育活動の工夫（厚田ならではの教育、厚田でなくては出来ない教育）
- 6 平成32年度の統合校開校に向けた教職員構成の確立（効果的な人事異動）等条件整備

#### ④ 聚富小中学校

学校名	石狩市立聚富小中学校
<b>【学校経営の重点】</b> <u>少人数だから、小中併置校だから、聚富だからできる学校づくり</u> ○協働体制による創意に満ちた信頼される学校づくり ○豊かな人間性を育み、人として生きていくための力の育成 ○基礎・基本の確実な習得と、「確かな学力」の育成 ○健やかな体を育み、自分の命を守る教育の推進	
<b>【研究主題】</b> ○課題意識を持って学び、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成 ～小中学校の連携を図りながら～	
<b>【特色ある教育活動】</b> <b>《地域連携》</b> ○運動会など（体育振興会合同開催） 運動会は「聚富地区体育振興会」と合同で行っています。児童生徒の競技と体育振興会の競技を順番に行い、効率的に運営できるように工夫しています。 ○聚富神社祭 地域の行事、聚富神社祭への奉納相撲に小中学生が全員参加しています。余興では小中合同で「よさこい踊り」を披露します。 ○稲作・稲刈り・畑作（小学校） 地域の方に、指導を受け実際に農作物の栽培を行い、収穫まで行っています。「栽培」を通して、食の大切さを体験的に学び、育てる楽しみ、収穫の喜びなどと同時に、生産者の思いと工夫に気づいたりする学習をめしています。 ○読み聞かせ 教員のみならず、地域のボランティア「おひさまの会」による、読み聞かせを休み時間に行っています（年間20回）。その他、年間2回の読書月間には、1時間読み聞かせもあります。 ○クリーン作戦 地域の方と共同で、自分たちの地域をきれいにするクリーン作戦に取り組んでいます。通学路や、バス停を中心に清掃活動を行っています。 ○地域を生かした体験活動 地域の自然や施設を活用した学習活動・体験活動を行っています。地層見学、販売体験、職業体験、乗馬体験など地域の資源を活用した体験活動を行っています ○外部指導者（漁業・カローリング他） 地域の方を講師として、地域の産業や地域スポーツ、地域社会等について学習しています。（漁師の出前授業・カローリング（石狩市民スポーツ）・租税教室、スキー学習など多くの地域の方にご協力いただいています。	



### ○放課後子ども教室

放課後子ども教室と連携して、自然体験、伝統文化、運動に親しむ機会の充実を図っています。

## 《小中連携》

### ○小中一貫を支える連携体制

小中合同の分掌部会による日程や行事等の調整、小・中それぞれの学校部会によるきめ細やかな指導検討、小中合同の職員会議により効率的な運営と、相互理解を深め、密接な連携を図っています。

### ○小中合同の児童生徒会活動

小・中それぞれの児童会、生徒会活動とともに、小中合同の「児童生徒会」による学校行事の運営や、地域の行事への参加により児童生徒の交流活動を行っています。

### ○小中一貫した授業スタイル

1時間の学習の流れを小中学校全体で「シブ授業スタイル」として統一を図り、全ての授業で取り組むことにより、授業におけるスムーズな小中接続を図っています。

### ○小中一貫した家庭学習

「家庭学習の手引き」は小学校1年から中学校3年まで学習の取り組み方や保護者としてのかかわり方などを系統的に示し、小中9年間の発達の段階を踏まえた家庭学習の例示と指導を行っています。

### ○小中合同の授業研究

小中教員相互の授業参観の実施、指導内容や方法についての小中教員相互の情報交換による授業改善により、9年間を見通した授業づくりを行っています。

### ○小中教諭のTTと副担体制

小学校での小中教員のTT授業、中学校教員が小学校学級副担任、小中合同行事の提案は小学校側が9年間を見通した提案をする等、9年間を見通した協働的・協力的な指導体制の拡充を図っています。

## 《学力向上》

### ○家庭学習のすすめ

年度始めに家庭学習の手引きを配付するとともに、年間数回、生活習慣や家庭学習についてのアンケート調査実施。また、参観日や通信で「家庭学習ノート」を紹介するなど、家庭と協働して取り組む活動を進めています。

### ○言語活動の充実

言語活動の充実の日常的な取り組みとして、短作文指導（低中学年）、新聞を読み要旨をまとめ感想を書く（高学年）活動を行わせています。また、発表に対する、質問の受け答えについても意識させるようにしています。

### ○英語（外国語活動）

小学校1年生より英語学習を実施、国際理解教育とともに英語という言葉の基本的な学習を行い、外国語活動や中学校英語への円滑な接続を図っています。

### ○長期休業中の学習会

「学習会」は、長期休業中における学習習慣を身につけさせることをねらいとし、休みの初日から実施しています。約束は、①集中する。②学習中はしゃべらない。③漢字は自分で調べる。④わからない時は静かに手を挙げる。

### ○豊富授業スタイル・ICT

「課題」「まとめ」といった基本的な授業スタイルを小中で同様に実施しています。小学生から、学び方を身に付けさせ、質の高い指導を図っています。

### ○読書発表会・作品発表会

年間2回、読書月間を設定。読書に親しませるとともに、自分の読んだおすすめ本の紹介などの発表も行わせています。その他、全校集会や総合的学習の時間の発表活動など通じて言語活動の充実も図っています。

### ○授業・学習評価の実施

授業研究とともに、教師の学習評価、児童生徒の学習評価を行っています。評価項目は「全国学力・学習状況調査」の質問紙調査を参考に、児童生徒と教師で同じ項目で評価を行っています。

### ○中学校教諭による TT

小学校の基礎・基本の定着と中学校教員の専門性により、児童の学習意欲の向上を図るため、中学校籍の教員と小学校担任による TT 授業を実施しています。(56年：社会科、理科、家庭科、外国語活動。4年：算数)

## 《体力向上》

### ○体育の授業（特定の運動の強化）

学年により、苦手な運動を克服させるため、授業のはじめに特定の運動能力を強化する取り組みを実施しています。休み時間も体を動かせるようボールなどの運動用具を自由に利用できるようにしています。

### ○持久走・縄跳び・鉄棒

全校で特設的な運動励行の機会を設定しています。持久走、鉄棒、縄跳びで目標を設定。個人カードを作成し、自己の成長を振りかえると同時に、目標を持って取り組むことができるようにしています。

### ○全校 新体力テスト

小学校1年生から中学校3年生まで全校一斉に新体力テストを年2回実施しています。記録をカードに記入させ、自分の成長を実感できるよう工夫しています。

### ○遊ぶDAY・ゲーム集会

児童・生徒会が中心となって、体力向上の取り組みを行っています。昼休みに小中みんなで遊ぶ「遊ぶDAY」、中休みに小学生で企画する「ゲーム集会」なども行われています。

### ○全校（運動会・遠足）

小全校での遠足、運動会での小中合同スタンプやよさこい踊りを実施。子どもたちの成長段階と体力面も考慮し、子どもたち一人一人が自ら目標を持ち意欲的に取り組めるよう学年ごとで差をつけています。

### ○清掃活動

小中縦割りでの清掃活動、小1～中3まで、班ごとに分かれて実施しています。中学生が清掃のやり方を指導、下級生が見習う等、リーダーを中心に効率的な清掃活動を行っています。

### ○食育

様々な体験的を通し、食の持つ多様な側面に気づき、大切さを学ぶことができるような取組をすすめています。調理活動でも地場産を活用し、子どもが地域の環境や産業について理解を深めることができるよう工夫しています。

### ○厚田区合同体育（小）

集団スポーツなどは厚田区の3校合同での体育を実施しています。少人数の良さを生かした指導を生かし、集団スポーツの楽しさも味わわせることが出来るよう工夫しています。

### 【学校が抱える課題】

- 今年度から中学校の先生がTTとして、小学校の授業入り、小学校の複式授業の負担は軽減できたが反面中学校の先生の負担が大きくなっているため再度調整しなくてはならない。
- 先生一人一人が分担する仕事量が多く、負担が大きい。一人でも二人でも何らかのかたちで加配があると助かる。
- 立地の問題で石狩管内から先生を呼び寄せるのが難しい。
- 教頭は、連合自治会や神社祭実行委員会等の仕事があり多忙である。(今年は特に一人なので)